

北条池（ほうじょういけ）

位置図



諸元

貯水量	1,317	千m ³
満水面積	37.7	ha
受益面積	537	ha
堤高	11.6	m
堤長	312	m

北条池は、綾歌郡綾川町に位置し、坂出市中央部の平野約 500ha をかんがいする県下で 12 番目に大きなため池です。呼称の起源は、江戸時代後期まで旧阿野郡（上古は綾郡）が坂出市府中町からの南の南条郡と同市加茂町から北の北条郡に分かれていた経緯から、古代条里制のなごり”綾北条”に因んで、北条池と呼ばれています。

古代条里の開拓で早くから開けた讃岐有数の穀倉地帯”綾北条”のかんがい用水は、古来より”天井川”と呼ばれた綾川水系に依存してきました。このため北条池が出来るまでは、綾川の自然流水や伏流水に頼るしかなく、農家の人々は相次ぐ干ばつや度重なる洪水・氾濫などの災害に困っていました。延宝年間（1673～1681 年）に、このような農家の窮状を見かねた北条郡林田村の財豪、宮武清八景秀は、新池創築を藩に願い出て、自らも私財を投じて大事業を成し遂げました。時代的には、藩主の命令を受けた矢延平六が築造したと推考されています。

この綾北条（現在の坂出平野）に大きな恵みをもたらした北条池も、築造後三百年余を経て老朽化が進み、平成 10 年（1998 年）から国営総合農地防災事業により堤体・樋管・洪水吐の全面改修工事が行なわれ、平成 18 年度（2006 年）に竣工しました。一新された北条池により、安定した農業用水の配水が可能となり、水稻はもとより、今では全国ブランドの『坂出三金時』の金時ニンジン・金時芋・金時みかん（小原紅早生）を始め、ブロッコリー、レタス、なばな、ネギ等の多品目の農産物が栽培されるなど、現在では本県の有数の農業生産団地を形成しています。



北条池(堤体)



北条池(全景)